平成 30 年度　第 1 回高鍋町総合教育会議　会議録

１．日　　時　　平成 31 年 3 月 4 日（月）午前 10 時 38 分～午前 11 時 37 分
２．会　　場　　高鍋町教育研究所
３．出 席 者　　6 名（全員出席）
高鍋町長　黒木　敏之
高鍋町教育委員会　教育長　川上　浩
委　員　黒木　知文　　委　員　小泉　桂一
委　員　四角目　久美子　委　員　杉田　淳子

４．事 務 局　　高鍋町教育委員会　教育総務課長　野中　康弘　教育総務課長補佐　芥田　賢治
５．ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　高鍋町教育委員会　社会教育課長　稲井　義人
６．議　　事
（開会　午前 10 時 38 分）

事務局（芥田）　ただいまから、平成３０年度第１回高鍋町総合教育会議を始めさせていただきます。
はじめに、会議の主宰者である黒木町長がご挨拶いたします。

黒 木 町 長　はい。皆様、おはようございます。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また日頃より、高鍋町の教育行政には多大なるご協力を賜っておりますことに心より感謝を申し上げる次第でございます。

さて、きょうの宮日新聞には明るい話題で、高鍋のミニラグビークラブが宮日杯で優勝したということで、良き高鍋の伝統と指導者がいてその成果が出たんだなと、明るい話題として良かったなというふうに思うところでございます。

ただ、暗い話題と言いますか、高鍋高校の定員割れがびっくりするくらい多かったんで、このことはやっぱり町民の方に会うたびに、そのことを指摘される方がおられます。なんとか、高鍋高校を後押しはしているものの、何か時代の流れの中で、もう少し工夫、あるいは、よそに流れる生徒を食い止めるという必要があるのかなということを思う次第です。

また、最近は子ども達の、親と子の関係が歪になっている場合があって、なかなか、いじめでありますとか、虐待、この間はひとりのお子さんが亡くなられるとか大変な事件もありましたんで、見えないところで色々なことが起きているんだなというふうなことを感じる次第でございます。今、野中課長の奥さんがスクールソーシャルワーカーとして活躍しておりますけれども、学校のカウンセラーだけではなくて、家庭と学校を結ぶ、そういうスクールソーシャルワーカー、そういう方がもうちょっとたくさんいて、学校の教育だけに限らず、家庭ともきっちり繋いでいくということが必要な時代になってきているのかなと改めて思う次第でございます。そのような時代の中に、きょうは高鍋町の教育大綱の見直しについて、皆様のご意見を賜る次第でございます。高鍋町の教育大綱は教育の柱になる大事な事項でございますので、どうぞ忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

事務局（芥田）　ありがとうございました。それでは、会次第に沿って進行させていただきます。ここからの進行につきましては、黒木町長にお願いいたします。

黒 木 町 長　はい。それでは、ここからは、私が進行いたしますので、早速、協議事項を進めさせていただきます。協議事項、高鍋町教育大綱の見直しについてでございます。この後、私の考えを述

べさせていただきますが、まず、見直し案の概要につきまして事務局から説明をお願いいたします。

事務局（野中）　はい。それでは、見直し案の概要について説明をいたします。資料の１、高鍋町教育大綱の見直し方針について案と書かれてある資料をご覧いただきたいと思います。よろしいでしょうか。こちらに方針の案を記載しておりますけれども、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定によりまして、首長、町長は、総合教育会議において、教育委員と協議し、教育基本法第 17 条の規定、これは、国の教育振興基本計画を指しております、この方針を参酌して、大綱を策定するとされております。本町では、平成２７年度に「高鍋町教育大綱」を策定いたしました。その後、この町の教育大綱が、計画期間が２９年度で満了になること、また、高鍋町の最上位計画である第６次高鍋町総合計画前期基本計画、通称みらい戦略と申しておりますが、こちらが策定をされ、総合計画と教育大綱の整合性を図る必要があることから、昨年の３月に計画期間を３２年度までとする高鍋町教育大綱の改定を行ったところでございます。ですので、大きな改定は昨年度実施いたしましたので、そのことを踏まえまして、今回につきましては、来年度におきます町長の施政方針であるとか、教育委員会の教育構想等に基づきます施策の見直しを行うことを基本方針とするというふうにしたいと考えているところでございます。次に、資料の３、高鍋町教育大綱（新旧書込版）を基に、施策の見直し部分についてご説明をしたいと思います。

資料の３をご覧ください。１点訂正がございます。施策の１で「学校統合を含む学校の在り方検討の推進」という項目を消しておりますが、この項目は復活させてください。こちらにつきましては昨年度、学校統合、中学校の統合を行った場合の施設の改修案というものを調査いたしました。多額の事業費を要することもありまして、当面の間は中学校の統合等については見送ったところでございますけれども、ただ、学校統合の在り方につきましては、将来に渡って調査、研究していくべき課題であるだろういうことで、この部分については削除せずに残したいというふうに考えております。

それから施策の２、「学力向上」と今まではしておりましたが、こういう漠然とした言い方ではなくて「小・中学校９年間の指導の系統性を踏まえた学力向上の推進」と改めたいと思っております。資料の４、３１年度　高鍋町の教育構想というものを付けておりますが、これの右上のＢと書かれてあります所の２番目、「教科・領域別部会の設置と方法・内容研究の推進」というふうになっております。本町の学校のメリットといたしまして、近い所に東西小中学校が、それぞれ２校ずつあるという距離的なメリット、学校規模のメリットもありますので、こういったものを上手く活かして、小・中学校の教職員を９つの教科と領域にグループ分けいたしまして、部会による研究を次年度から取り組んでいきたいと考えておりますので、そのことを踏まえまして「小・中学校９年間の指導の系統性を踏まえた学力向上の推進」という形に施策を見直すというか、言葉を追加したいというふうに思っております。

それから、「中高連携から中高一貫教育への進展」となっておりますが、中高一貫教育につきましては、先ほど申し上げましたように学校統合等については当面の間見送るということもありましたので、この文言を「小・中・高の交流と地域との連携による効果ある学校教育の推進」というふうに見直しをしたいと思っております。小・中・高の交流につきましては、現在も小学６年生が高鍋高校に行って交流をしたりであったりとか、中学校の生徒たちが高校のちょっとレベルの高い授業に参加をするといった交流も継続して行いながら、こういった学校教育の推進を図っていきたいというふうに考えており

ます。それから、今までは「キャリア教育の推進」としておりましたので、昨年の１０月に高鍋町のキャリア教育支援センターを商工会議所内に設置をいたしました。町村では初めてのセンターとなりますので、この「センターを核とした」という言葉を追加したいと思っております。センターが来年度から本格的に稼働しますので、センターを中心としてキャリア教育の推進を図っていきたいと思っております。それから、「外国語指導助手（ＡＬＴ）派遣事業の推進」の「推進」という言葉を「充実」と改めたいと思っております。こちらにつきましては、先ほどの定例教育委員会の中で当初予算の案をご説明いたしましたけれども、外国語指導助手を１名体制から２名体制にということで、予算案を明日からの定例議会に提案したいと思っておりますので、言葉を「推進」から「充実」に改めるということを考えております。

それから施策の３、「教育的な配慮を必要とする子ども等の支援事業の推進」としておりますけれども、ここは範囲を膨らませまして「関係部局との連携によるトータルな「子育て」の研究・実践」という形にしたいと思っております。こちらについても先ほどの資料の４の教育構想の右下のＤのところで、福祉分野ということで記載しておりますけれど、「福祉分野との連携によるトータルな「子育て」の研究・実践」というものを来年度から取り組んでいきたいと思っております。やはり現在の教育というものにつきましては、学校就学前も重要な要素でございますので、このあたり０歳児から就学時までの有効な指導法の開発も研究していく必要があると思っておりますし、教育委員会と福祉課、それから健康づくりセンター等の、就学前健診であったりとか、３歳児検診とかもありますので、そういった部局との連携を図っていきながらトータル的な子育ての研究・実践を図っていく必要があるのではないかということで、このような施策に見直したいと思っているところです。

それから次のページのほうで社会教育分野の関係ですけど、施策の１の追加といたしまして、「「まちなか」に教育子育て施設の設置推進」について取り組んでいきたいと考えております。当初予算案の中ではこの事業の予算は計上しておりませんけれど、まちなかにこういった施設を設置することについての研究を今年度にやっていきたいということであります。

それから施策の２、「古文書修復の今後の在り方検討」というところを、今後の在り方の検討ということにつきましては終わっておりますので、「古文書の修復、デジタルデータ化及び解読事業の推進」ということで見直したいと思います。稲井課長から補足をお願いいたします。

稲井課長　はい。古文書修復の今後の在り方検討というのを以前あげておりましたけれども、昨年、一昨年と２年間かけまして、在り方検討委員会のほうを図書館協議会のほうで話をしました。やはり意見が二つに分かれまして、きちんと保存していくべきだという意見と、図書という考えで、見たい人には、どんどん貸し出しもしたりとか手に取って見せるとかという意見も出ましたけど、元々が貴重なものですから、それを貸し出すとか手に取って見せるというよりも悪い所を修復してデジタルデータ化をしていくべきだという意見になりまして、現在２万冊近くある古文書、古記録について裏打ちをしている修復については７，４００冊ほどあります。データ化につきましてはこの３月で９，０００冊ほど終わる予定になっています。約半分近いものがデータ化をされております。これがきちんとデータ化をされてですね、悪い部分の修復が終わればですね、きちんと今後保管・管理できると思います。それに合わせまして、この作業中も防カビ・防虫の対策は取っておりますので、それを取りながら事業を

進めていきたいと考えております。以上です。

事務局（野中）　ありがとうございました。今回の大綱の見直し部分についての概要説明は以上でございますので、町長から補足等ありましたらお願いいたします。

黒 木 町 長　はい。ただいま事務局から説明のあったとおりでございます。基本的には教育に力を注いでいかなくてはいけないなということでありますが、いくつか色々、冒頭申し上げましたとおり、高校への繋ぎ方として、高鍋高校、高鍋農業高校の存在に対する、小中高の在り方を大事にしていかなければいけないということでいくつかの所を変えさせていただいたところでございます。それともう一つ、キャリア教育支援センターができましたので、これもコーディネーターの方がおられますので、しっかり色々と議論をしながら進めさせていただければと思います。特にわたしはキャリア教育については、富山県が先進地であって、多くの子ども達が学校を卒業したら地元に帰ってくるんですよね。宮崎県は下から２番目、３番目、ついこの間までは最下位で、帰ってこないということがあって。キャリア教育の在り方で富山県の場合は、要するにコーディネーターも学校の先生も預かる企業も全て地元で生きる素晴らしさというものを常に統一した意見でやっているわけですね。これが、なかなか、そこのところを統一しながら子ども達に地元で生きることの素晴らしさを教えるんだということを、高鍋町の素晴らしさを教えるんだということを基本に、そこがキャリア教育にとっては重要なところで、コーディネーター、先生、企業の方、これがちくはぐではどうしても届かないところがある。富山県の場合はそこが充実していて、成功している事例としてあるようでございます。高鍋町もキャリア教育支援センターができましたんで、ふるさとに生きる素晴らしさを伝えていく教育をしていかなければというふうに思っている次第でございます。それと、生涯学習の推進の中で、「まちなか」に教育子育て施設の設置推進というのは、これは教育長の方から提案があった事項で、後ほど教育長の方から意見を述べさせていただきます。高鍋町のまちづくりをする上でよく言わさせていただいているのは、北のデイリーマーム、そして南に宮崎キャノンができ、そして西に温泉が民営化できました。これも宿泊施設等も整備していただくという予定にあります。そして駅にもそろそろ、駅の改革もさせていただくと。そして、まちなかでございます。これは商業施設等がなかなか時代の流れの中で商店街が疲弊化していくわけでございますけど、教育長の方からまちなかで子育ての支援ができる施設を作ることで何か利用できるようなもの、あるいは、子育てに有効なものを作ろうということがあって今回加えさせていただきました。そのような流れでございます。以上、わたくしの話は以上でございますが、どなたからでも結構ですので、委員の皆様方のご意見をお聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。ご質問とかご意見はございませんでしょうか。特に一回線を引いて、「学校統合を含む学校の在り方検討の推進」、一回線を引いて、また、線を消すということなんですけど、実は中学校を、高鍋高校の横の東小学校に中学校をという案、そうすることで中・高の流れを良くして高校に進学する子を、高校の先生が相乗りして中学３年生の授業をするとか、そういうことでつなごうということであったんですけど、どうも色々調べますと中学校を一つに統合するにはお金がかかりすぎるということで、少し先送りせざるをえないということで。ただ、在り方については今後も検討していく必要があると。もう、部活動もなかなかままならないというか、バスケットボールもないとか、野球も今、女の子がだいぶ入って応援しているとか、ぎりぎりの人数ですとか、我々が小さい頃からすると児童生徒数も減っておりますので、そういう方向も長期的にはあるということで、施策として残させていただいたところでございます。その他、なにかございませんか。

黒木委員　ひとついいですかね。

黒木町長　はい。

黒木委員　キャリア教育支援センターという素晴らしい施設ができ、その、ふるさと教育とキャリア教育は密接に関連していますよね。それで、学校としての、あるいは、ここの教育研究所ですね、ここでもふるさと教育について２年間か３年間研究しました。各学校でも毎年やっているわけですが、教育内容の充実で、キャリア教育支援センターを核としたキャリア教育の推進、そして一番最後の中点でふるさと教育の推進と別になっているわけですね。これを、分けてもいいんですけど、ふたつ一緒にするといいかなと。ふるさと教育の推進とキャリア教育、ここを一緒にしてもいいかなという気がするんですがいかがですか。

黒木町長　なるほどですね。実はキャリア教育というのはふるさと教育なんですね。ふるさとの素晴らしさをどう伝えるかというのが中心にあるべきだと思うんですね。特にキャリア教育というとすぐ、いくつかの企業に子どもを預けて職場見学して終わりましたとなってしまっているので、本当はふるさとの素晴らしさと、ふるさとで生きている人の素晴らしさとを上手く合致するような形にならないといけない、そういうのはおっしゃるとおりだと思うんですよね。

黒木委員　分ける、分けないというのはそんなに大した問題ではないんですが、密接に関連していればくっつけてもいいかなという気がしたものですから。

黒木町長　ふるさと教育というのは学校の授業の中でもやっているんですよね。

黒木委員　やっていますね。教科外活動で・・・

黒木町長　どうでしょうね、一緒にするというのも・・・

事務局（野中）　ふるさと教育はキャリア教育の重要な要素のひとつでありますので、例えばキャリア教育支援センターを核としたキャリア教育・ふるさと教育の推進ということで一緒にしてしまうと、黒木委員が言われたように全く別のものではなくて、キャリア教育とふるさと教育は密接な関係があると捉えられますので、そういうふうに改めていただいても全然問題は無いと思います。

黒木町長　少し文書は長くなるけど「キャリア教育支援センターを核としたキャリア教育及びふるさと教育の推進」というのでもいいんですかね。

事務局（野中）　はい、それでも構いません。

黒木町長　キャリア教育とは何かがはっきりわかりますよね、その方が。ちょっと、もう、子どもを職場に預ければ職場体験みたいに終わらせてしまっているところがあって、そこのところは何を学ぶかということですよね。そこのところはとても大事だと私は思うところです。ひいてはそういうところが、高鍋高校への進学へつながるような気がしないでもないんですよね。

川上教育長　よろしいですか。新明倫の教えみたいなものは、校長先生方から話があってできたという背景もありますね。それから、これ、今持ってきているものは平成１８年度のやつですけど、小学校の副読本で３年生、４年生が使っているものです。そういう形でのキャリア教育というのはいわゆる職業のマッチングの教育ではなくて、地域教育とかそういうことから考えていく視点が重要ですよね。今まで、過去に商工会議所も取り組んでいたということもありますので、我々の中ではそういうような大きな前提としてあるんですけど、今、黒木委員からありましたご指摘というのは、それを文言化として表すべきではないかということではないかという気がします。ただ長くなるので・・・

事務局（野中）　町長が先ほど言われたように、「キャリア教育支援センターを核としたキャリア教育及びふるさと教育の推進」といれるだけでもわかりやすいかなと思いますので、そういう形で見

直すということを皆さんでお諮りいただければ・・・

黒木町長　下の「ふるさと教育の推進」は消しますか。

事務局（野中）　消して上の方の「キャリア教育」の後に付けた方が、キャリア教育とふるさと教育は密接な関係があるということは間違いありませんので。

黒木町長　これはとても大事だと私は思っているんですよ。宮崎県はそこがちょっと足りないような。ふるさとに生きる、ふるさとの素晴らしさ、ふるさとで学ぶことの意義というのを、やっぱりキャリア教育の根幹をそれがなしていると思うんですよね。これは大事だと思います。

杉田委員　いいですか。

黒木町長　どうぞ。

杉田委員　私もふるさと教育というのは大事だなと思っていて、最近よく耳にするのは、町の方で祭りがありますよね、一旦は高校を卒業して出るんですが、祭りに参加することがやっぱりままならない、外に出ていると。それに出るためには、こっちに帰ってきたいという声を聞くんですよね。ということは、昔からお祭りというとちょっと、なんですかね、教育とはちょっと関係ないかなという気はするんですけど、大人の人達とかかわることがあったりとか、それから、この辺りに住んでいる子ども達の小さい頃からの、なにがしかの教育になっているんじゃないかなと私は思うんですよ。そういうのを利用したりとか、そんなのを大切に昔から積み上げてきたものを利用して、それを何か教育に利用できないかなというのは常々、それを何人かから聞いて、そのためにやっぱり高鍋に残りたいと思うんだと不思議に思ったところだったんですけど。そういう子ども達もいるのかなと思うと、どうにかならないかなと思うんですけれども。

黒木町長　そうですね。町内での心の思い出に残る、祭りですとか、実はそういうところで育てられてきているわけですよね。大人になっても故郷のそういう行事に帰ってきたり、それがあるからやりがいがあるというのはとっても重要なことだと思います。

杉田委員　大人の人達、親ばかりではなく、近所に指導する人達がいるんですけど、その人達にも育ててもらったというような感じがするので、その辺は何か少し、それからもうひとついいですか。その、福祉関係なんですが、子どもの教育がどうしても、子どもの教育は大事なんですが、今、親が教育をされていないというか、いざ、親にはなったけど子どもの教育をどうしていいのだろうというのが、すごく感じるようになったんですけど。その人達には子どもと一緒に教育をしていくと。前はよく言っていましたけど、親業とか言っていましたけど、そういうのも少し入れると教育の充実につながっていくのではないかなと思うので、福祉課とかその辺でと言われるとそれまでなんですが、そういうのも連携するということで、そういうのも少し盛り込んでいけると、なんか子どもの教育に繋がっていくんじゃないかなという気もするんですよね。

黒木町長　子どもの教育プラス親の教育ですよね・・・

杉田委員　子どもの頃に受けた教育と、子どもの頃の勉強と子育ては違いますので、親の教育を盛り込むと・・・

黒木町長　そうですね。

杉田委員　うまく福祉課との連携が必要にはなるとは思うんですけど。

黒木町長　子どもが育つのと親が育つというのは・・・

杉田委員　同時に育つとは言いますけれども・・・

川上教育長　よろしいですか。ふたつご指摘があったんですけど、例えば支援という意味で言うと、さっき課長からありましたけど、子育て世代包括支援センター事業というのが今あって、はっ

きり言うと私は、胎児から１８歳まで、それから保護者の視点で言うと妊婦さんから高校生の保護者までをトータルに考えて、切れ目のない支援が、ある意味では考えなくてはいけない時代が来たような気がしますね。

一方では、研修会とかを開いても来られる方はある程度一緒の方が来られるので、そこのところを、さきほど町長の方から紹介がありましたけど「まちなか」の方にある、みんなが立ち寄れるところの中でハードルを低くして、杉田委員が言われたような形が共有化できないか。それから家庭教育の部分については、社会教育の施策の３の方で「みんなで子育てをする環境づくり」の中で「地域学校協働活動の推進及び家庭教育環境の充実」、この前も家庭教育学級があったんですけど、そこの中の旧来のあるものの意義とかいうことは必要でしょうという気がしていますね。ですからご指摘があった部分は、これよりもさらに具体的な中で今やっているものを再確認みたいなものが必要ではないかなと思います。

祭りの件は、僕も五ヶ瀬の時に教えた子が、立花神社の祭りでやっていましたね。その子に聞いたら祭りに帰ってくるんですね。

杉田委員　そうなんですよね。外には出たけど、忘れられないじゃないけど、やっぱり関わり合いたいという子が何人もいるんですよね。

川上教育長　それもひとつの教育、人間関係とか、そういう習慣文化が重要ですよね。社会教育関係が大きいんじゃないですかね。

黒木町長　大きいですよね。特に、今、人間関係が希薄にどんどんなって公民館に入らない人も増えてきたりしているような時代には、とても重要だと思いますね。今おっしゃったような親の学びの教育はどこかに書込むことが・・・

川上教育長　よろしいですか。

黒木町長　はい、どうぞ。

川上教育長　杉田委員の問題意識というのは、かなり、ずっと根底にあるんですよね。施策の３に出てきているのは出ているので、家庭教育環境の充実という形の中で、我々がもっと具体的に、そこで入れるかどうかだと思うんですよね。家庭教育環境、いわゆる社会教育と学校教育はどっちかというと別建てだったのが、クロスがものすごく増えてきているんですよね。実はスポーツ関係もそうですね。さっき、課長が施策で紹介した小学校にスポーツクラブが入ってきますし、きのうの舞鶴ロードレースもそうですけど。

小泉委員　施策３の「青少年育成事業の推進」、これは大きすぎて具体的には何を、例をあげると今は、何でしょうね。

稲井課長　今のところは、明るい社会づくり運動への参加ですね。

川上教育長　例えば、本当は育成事業の中で見えやすいのは、施策１の「生涯学習の推進」に入るスポーツ少年団なんかもそうなんですよね。ある意味一番わかりやすい所・・・

小泉委員　子ども会もですよね。

黒木町長　大事な部分ですよね。虐待とかそういう部分も含めて、家庭ですよね。

四角目委員　よろしいですか。

黒木町長　はい。どうぞ。

四角目委員　やっぱり、家庭というか地域で育てるというのもすごい大事なのかなと思うんですよね。それで、私たちが子どもを育てる時にもぐら打ちというのが復活したんですけど、それを私は全然知らなくて。新しい方が公民館長になられて昔はこんなのがあったって復活させて、すごく子どもの絆が深まっていったというか、親もそうなんですけど。だから、今、杉田委員が言われたように保護者を育てるというのはそういう地域の色々なお祭りごとじゃないけど、

そういうことをやることによって、親も一緒に育っていく、そういう部分もあるんじゃないかというふうに感じたことがありましたので、一応報告します。

黒木町長　もぐら打ちと言うんですか。

四角目委員　なんか、棒の先に藁を編んだみたいなものをつけて、こう、地面を叩くんですよ。

黒木町長　そうですか。それをみんなでやるんですか。

四角目委員　子どもたちがですね。そして、家庭、家庭をまわっていくと、家庭でお菓子とかを準備してくださっているもんだから、子ども達はすごく楽しみにしてまわったっていうのがあります。

黒木町長　それ、いい風習ですね。

川上教育長　時期は、旧正月くらいですかね。

四角目委員　二月だから、そうだと思います。

杉田委員　昔は十五夜とかありましたよね。

四角目委員　そうですね。だから、そういう、節分だの、十五夜だの、そういう節目というか、大事にしていく・・・

黒木町長　ふるさと教育の中に、そんなのもひとつであると捉えれば、改めて文言として・・・
杉田委員が言われるのは社会教育に・・・

杉田委員　なりますわね。

川上教育長　公民館活動にもなるし。牛牧地区では十五夜祭りを若い人たちでやっているんですかね。

黒木町長　地域での子育て育成の推進でしょうかね。

四角目委員　特にこれは言葉にしなくてもいいと思うんですけど、そういう色々な方面から、やり方ですね。

黒木町長　ただ、すごく大事ですよね。子ども見守り隊とかですね、やっておられる方たちが、高齢者の方たちが素晴らしいんですよね。よそから来られた人たちが、高鍋の子どもって、みんなあいさつをしますよねと、これ、結構びっくりされる方が多いんで。高鍋の場合、そういう教育がされているんですね。

黒木委員　よその県だと、逆にあいさつをするなと。あいさつをすると危ないと。

川上教育長　公民館の館長とお話をすると、なかなか難しいところもある、全部セットなんですよね。でも、さっき杉田委員が言われたように若い人たちにニーズが無いのではないというところは大事な視点だと思います。

黒木委員　別件でよろしいですかね。

黒木町長　はい。

黒木委員　４ページの施策１で「読書環境の充実」、これは環境の面ですね。施策３が「心豊かな児童・生徒の育成」。この中に音楽祭が入っているわけですね。心豊かというと、何と言っても図書館教育じゃないかという気がするんですよ。それで、施策１では読書環境、施策３では音楽祭が入ってくる。図書館教育みたいなものは、ここに入れるからうんぬんではなく、当然、学校で図書館教育というのはなされているわけですけど。これは重点施策ですから、読書環境だけでいいかなという気もしないでも、ちょっと言い方があれですが。読書環境を充実する重点施策なんだ、図書館教育についてはもちろんやりますよと、そういうふうに捉えれば、もうこれでいいと思うんですけど。言いたいことはおわかりでしょうか。

黒木町長　わかりますよ。

川上教育長　今の件については、先ほどの社会教育の方の「「まちなか」に教育子育て施設の設置促進」とありますが、前もお話ししたかもしれませんが、その上にあります「町立図書館の整備・構

築」とセットでですね、その中で図書館機能を分けて考えようと。ある意味では読書環境の充実は施策１のところで学校図書館なんかがですね、非常に今、小学校の高鍋の図書館は非常に手厚い支援をさせていただいていますね。それは成果としても上がっているので、そういうふうなことを指している。じゃあ、町の中にそういう、心豊かな児童・生徒を育成するためには町の中にそういうふうな文化を、古文書を扱う図書館は非常に珍しい図書館ですが、その中でもうちょっと皆さんが読書を利用できるような場所を、町として「まちなか」にできないかというねらいもあって、町長があげていただきましてけれど、生涯学習の推進の中に「「まちなか」に教育子育て施設の設置推進」という項目。あと、もうひとつ、こっちの方でいうと、先ほど教科・領域別部会の中に図書館教育というのを一応立ち上げていますので、司書を中心にですね。その中で、先にお配りしていないけど、細かい所の中でそういうことをしていくということですかね。

黒木委員　いや、もう、そういうことで十分に理解できましたので結構です。

黒木町長　はい、貴重なご意見をありがとうございます。

川上教育長　説明の場というか、これをどう広げていくかということが重要だとは思いますね。

黒木町長　今、図書館の在り方協議会を進めておりますし、教育長から提案のありました「まちなか」に今、検討中でありますけど、教育子育て施設をということなんかも図書機能をつけた形で、高鍋町内、大型の図書館はできないんですけど、ちょっと大変なんですけど、今、在り方をどのような形でしていくかということが大事だと思います。

特に図書館の機能性というのも今の時代では、図書館で本を借りたい子、図書館の中で勉強をしたい子、あるいは、図書館は地域の伝統や文化の資料がたくさんある所、あるいは図書館から様々な情報を発信する所。もっと変わった人では、コーヒーを飲む所とかですね。今本当に時代の流れの中で図書館の機能性が変わってきていますので、それも検討しながら色々とニーズにあった形で今、在り方を検討しているところでございます。ご理解を賜ればと思います。

事務局（野中）　先ほど、２点あったと思いますが、キャリア教育とふるさと教育をどう関連付けていくかということ、「キャリア教育支援センターを核としたキャリア教育及びふるさと教育の推進」という形でよろしかったですかね。

黒木町長　そうですね、キャリア教育のところですね。「キャリア教育及びふるさと教育の推進」というようなことで書き換えると。いいんじゃないでしょうかね。よろしいですか。

委　　員　はい。

黒木町長　後は入れなくてもいいですか。みんなで子育てをする環境づくりの中で、地域での子育て機能の推進とか、なんかそういうのは要らないですかね、この施策３の中に。どこかにありますか。入れる必要はないですかね。

川上教育長　いいですか。

黒木町長　はい。

川上教育長　今、社会自体が過渡期といえば過渡期で、学校教育と社会教育がクロスしているんですね。今の案件で言うと、実はその、前の施策１の「教育環境の整備充実」の中に学校運営協議会、いわゆるコミュニティ・スクールの充実という項目があがっていて、これがかなり今後は入っていくと。

黒木町長　コミュニティ・スクールですね。

川上教育長　それが入っていくという形で、そこのところが、今、分けて書いていますけど。

黒木町長　コミュニティ・スクールというのは、基本的に、簡単に説明していただくと・・・

川上教育長　ここで言うと、東西の小中学校で分かれています。課長の方からちょっと話をして。

事務局（野中）　コミュニティ・スクールというのは、学校運営協議会を取り入れているものをコミュニティ・スクールと言いますけれど、高鍋の場合は東校区、西校区でそれぞれ学校運営協議会が立ち上がっております。今までは学校支援地域本部事業ということで、どちらかと言うと地域が学校を支援するという、一方通行的な流れだったんですけど、今後につきましては学校と地域が協働して活動をしていくということで、双方向的な、学校も地域に支えられるし、地域も学校に、例えば何と言ったらいいのかな、児童・生徒を活用するという流れにありますので、こういった事業をうまく活用、強化していくことで、学校教育の充実も図られるし、ひいては地域の発展、充実も図れていくという事業でございます。簡単に言うとそんな感じです。

川上教育長　今、東西の、東小、東中で一つ、西小、西中で一つ、運営協議会があります。この中で、先ほどありました安全見守り隊というのは、この典型ですね。ただ、一方ではさっきあった、学校も今度は、学校にしてくれというと職員の負担の問題が出てくるので難しいんですけど、ただ、一方では年中行事あたりを、運動会で地元の踊りを踊ったりしますね。だから、そういうふうな形でやっていくということが一つですね。

黒木町長　高鍋はコミュニティ・スクールは充実しているんですか。

事務局（野中）　高鍋は充実しているほうだと思います。

川上教育長　この前、研修会があったんですね。都城から講師を招いて話をしていただいたんですが、県内の中では高鍋は進んでいる方でしたね。それを参加者みんな感じたと思います。それがひとつは高鍋の良さですね。皆さん、良さについて自覚されていないような気がするんですけど。半歩くらい進んでいる感じはありました。

黒木町長　施策３の「みんなで子育てをする環境づくり」の下の方の「地域学校協働活動の推進」、これは具体的にはどういうことをやっているんですか。

川上教育長　コミュニティ・スクールは典型ですね。後は何かありますかね・・・

事務局（芥田）　先ほど課長が説明したとおり、前は学校が地域の方に何かお願いしてという一方通行的なものだったんですけど、地域学校協働活動という形で地域の方からも学校にお願いすることがあるということを今後推進していく、双方向で協働していくと地域学校協働活動という名称に２９年度から変わっているんですけど、こちらの方に全国的に移行していく流れがあります。

事務局（野中）　今は学校が、例えば交通安全の見守りとか、ふるさと学習での講師とか、どちらかと言うと学校の方が地域に求めていることが多くて、地域が学校に求めることについては、今後出てくるような形になりますので。

黒木町長　この項目は、先ほど杉田委員と四角目委員が言われたこととは繋がりますか。

川上教育長　繋がると思いますね。昔は家庭教育学級もさっき言われたことをやるためのものだったわけですね。それがある種、時代の中で変わっていったり、なかなか運営が難しくなっていったりする中を、新しい形でどう活性化していくかとかいうのがテーマであるという問題意識を持っています。社会教育課長はいい？

稲井課長　学校支援地域本部事業のところまでは社会教育課でやっていましたけど、こっちの方に変わってからは学校とのやり取りが多くなってきたんで・・・

川上教育長　この前、研修会の時に質問をしたんですけど、全体的な流れとして地域と学校という言葉はしょっちゅう出てくるんですよ。でも、我々の本当のテーマは家庭なんですよね。家庭は本当は、地域の単位は家庭なんで、そこのところにどう入っていくかというのは大きなテー

マであって。そうなると文言としてはこのままで、この中をどう具体的に充実させていくかということではないかという気がするんですけど。

黒木町長　わかりました。

川上教育長　スポーツも大きいですよね。青少年育成事業にはスポーツは大きいですよね。

黒木町長　他にご意見ございませんか。

黒木委員　ちょっと、あの・・・

黒木町長　どうぞ。

黒木委員　社会教育関係の施策２ですね、一番下の持田古墳群ですよ、きょう新聞を見てあれって思ったんですけど、西都原と宮崎市と新富町がシンボルマークみたいな、高鍋が載っていないものだから、高鍋は漏れたのかなと私は思ったんですけど、これは・・・

黒木町長　これはですね、世界遺産として・・・

稲井課長　世界遺産の推進事業とは別の、日本遺産ですね。

黒木町長　これは歴史的な背景があったんですよね。

稲井課長　そうです。

黒木町長　古墳のできた経緯とか年度が違うらしいですね。

稲井課長　だいたい古墳自体が３世紀後半から４、５、６世紀とできているんですけど、高鍋の場合は４世紀から６世紀までの古墳があるんですね。ということは、豪族が安定した統治をしていたということなんですけど、今回の日本遺産は、生目古墳から新富の新田古墳、西都原というふうに４世紀にできたもの、５世紀にできたもの、６世紀にできたもので豪族が移動しているんですね。その移動しているという歴史的背景を捉えて日本遺産に申請をしているものですから、高鍋とはちょっと違った形になります。

黒木町長　私もちょっとあれって思ったんですけど、申請が無かったというわけではないんですね。

歴史的背景があったんですね。

稲井課長　はい、そうです。

黒木町長　今、世界遺産の方を調査しているんですかね。

稲井課長　はい。

川上教育長　説明されないとなかなかわからないですよね。物語をあそこで形成した、世界遺産は景観で、ランドマークとしてやった時には、持田古墳は価値があると思いますよね。

黒木町長　どうも歴史が違うらしいんですよ、持田古墳と。

川上教育長　かえって説明できる機会があってよかったです。

黒木町長　ただ、なんとかならないかは、持田古墳を日本遺産の中に入れてくれとお願いというか、方法はないかということで動いております。

その他は、ご質問、ご意見等はなかったでしょうか。それでは、これにて質疑を終わらせていただきます。

高鍋町の教育大綱の見直しにつきましては、キャリア教育とふるさと教育の項目を修正する形でのご承認ということでよろしいでしょうか。

委　　員　はい。

黒木町長　では、以上で協議事項を終わらせていただきます。その他、皆さんの方から何かありませんか。

高鍋高校の卒業式は感動的で、非常に素晴らしい卒業式で、女の子の答辞が上手くてですね、なかなか涙を誘う・・・

川上教育長　なんで高鍋高校に行かないのかという話ですよ。

黒 木 町 長　　そうですよ、それが言いたいですよ。

川上教育長　　いい学校ですよ、本当に。

杉 田 委 員　　素直な子ども達が多いんですよね。昔から私は、高鍋高校の子ども達は素直な子ども達だなと思っていました。他の学校の子どもと比べると素朴な感じですかね。それが嫌だという子は外に出ていくのかもしれませんけど。いい所なんですけど。

黒 木 町 長　　今、中学と色々繋ぐようにしているんですよね。

川上教育長　　３１年度は気合を入れてやります。ひとつは小学校からの流出の問題もありますので。

四角目委員　　高鍋を愛してほしいですね。

黒 木 町 長　　じゃあ、だいたいよろしいですか。

委　　員　　はい。

事務局（芥田）　　以上で、平成３０年度第１回高鍋町総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

（閉会　午前 11 時 37 分）